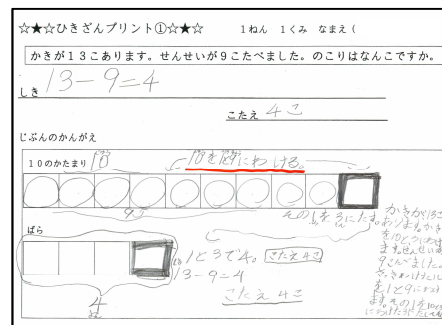


1年 算数科研究授業のまとめ（11月17日）

1 単元名及び単元の目標

ひきざん（1/13本時）

- ◎ 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それをを用いることができるようにする。



【資料1 ワークシート】

2 本研究授業の提案について

本時では、繰り下がりのある減法計算の場合について、計算の仕方を考えさせるための手だてとして、以下の二つを提案した。

- (1) 計算の仕方を考えさせる際、視覚的に捉えさせるためにブロック操作を取り入れた。これまでの加法や減法の単元でも算数ブロックを使って自分の考えをまとめ、ペア学習や書画カメラで発表させるという活動に取り組んできたため、児童はブロック操作で考える活動には意欲的に取り組むことができた。また、ワークシート上でブロック操作をすることで、どのブロックをどう動かしたかが分かり、児童の思考を補助する上で有効であった。
- (2) ブロック操作によって考えた計算の仕方をワークシートに書かせることで、思考の過程を可視化することができるように工夫した（資料1）。思考の過程を可視化することで、児童自身が自分の考えを確認したり、教師が見取ったりする上で有効であった。しかし、ペア学習で説明する段階において、ワークシートを用いて説明することが難しい児童も見られた。また、減減法、減加法等に児童の考えを分類する際、見取ることが難しいワークシートの書き方も見られた。説明する際にブロック操作も併用させるなどの配慮が必要であった。

3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 児童が理解しやすい方法で、ブロックやワークシートを提示した。書画カメラで解き方を説明した後に、ワークシートの拡大図に書き込みながら児童の考えを確認した。児童の思考を整理し、かぞえ引き、減減法、減加法の三つの方法に分類するためには有効であった。
- (2) 作業する内容を理解させたり、見通しを持たせたりするために、簡潔な指示や発問を工夫した。1年生という発達段階を考え、一つの発問で一つの作業をさせるように配慮した。机の上に必要なものだけを出させたり、支援の必要な児童に個別指導を行ったりしたことで、集中して学習に取り組むことができたのではないかと考える。



【資料2 書画カメラによる提示】

4 今年度の研究を振り返って

今年度は、「のこりはいくつ ちがいはいくつ」と「たしざん」の研究授業を行った。どちらも「数と計算」領域で、主に算数ブロックやワークシートを用いて考える活動、ペア学習で友達に説明する活動を取り入れてきた。考えさせるための手だてを工夫することで、共同研究における目指す児童像の（1）についてはねらいに近づいているのではないかと感じている。しかし（2）の「考えを表現する」場面では個人差が出てしまったと考える。自分の考えを表現させるためにどのような個別の支援が効果的なのかを考え、工夫しながら実践を続ける必要がある。そうすることで、（3）の「伝え合い」「友達のよいところを見つける」ことができる児童を今後も育てていきたい。